第４回篠山市総合教育会議　議事録

１．日　時

平成２７年１０月３０日（金）　午後１５時００分～１６時５０分

２．場　所

酒造記念館（研修室）

３．会議に出席した構成員

市　　長　　酒井　隆明

教育委員会

教 育 長　　前川　修哉

教育委員　　酒井　克典

教育委員　　小澤　千秋

教育委員　　中村　貴子

教育委員　　垣内　敬造

４．構成員以外の出席者

総 務 部 長　　上田　英樹

地域コミュニティ課長（中央公民館長）　　樋口　裕昭

５．事務局出席者（教育委員会事務局）

次　　長　　細見　博文

教育総務課

課　　長　　小林　康弘

係　　長　　安井　聡博

６．次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	１　開会（酒井市長挨拶） ２　協議・調整事項について (1) 篠山市教育大綱の策定について
酒井市長	項目ごとに確認をしていきたい。
酒井委員	全体的なこととして、「１．ふるさと教育」の小項目には“日本遺産のまち、農の都”のように副題が付いているが、それ以降の項目には付いていない。わかりやすく、市長の思いも反映できるので、付けるのが良いと思う。
垣内委員	そのことに関連して、「４．スポーツに親しむ」について、他の項目と比べて具体的な記述が少ない印象がある。
酒井市長	副題の付けられるものは、考えていきたい。
酒井委員	例えば「コミュニティ・スクール」であれば、“地域の子どもたちは地域の力で育てていこう”といった内容で良いと思う。
酒井市長	「３．学力の確立と向上」の、“読み、書き、計算、あのねちゃん”は副題のようなものである。
酒井委員	“読み、書き、計算、あのねちゃん”では、少し分かりにくい。“塾に頼らない義務教育”といったイメージを示したい。
酒井市長	どれぐらいの子どもが塾に通っているのか。
前川教育長	根拠になる数値は掴んでいない。学校では、ある程度の状況を知っている。
酒井委員	条件的に、塾に通いやすい地域、通いにくい地域があり、英語についても、通える子、通えない子の格差が気になるところである。義務教育による学力保障への意気込みを示せないものか。
酒井市長	「塾」云々ということを大綱に示すのは、いかがなものか。
前川教育長	義務教育は、学習指導要領に示された内容を網羅していくことが到達点であり、それを全うすることが課せられている。“塾に頼らない”という言葉よりも、教員の本分や学校の果たす役割を考えていくことが重要と捉えている。
酒井委員	学習指導要領は最低基準であるが、それができていないので、その決意を示せればと思っている。塾を否定するものではないが、経済的、地理的に不利な子どもは、塾には通えない実態もある。
酒井市長	塾で学ぶことは、試験対策の要素が大きいと感じている。そういう意味での学力でないことを示したいので、項目の表現としては、今のままで問題はないと思う。
酒井委員	私の思いを伝えたかった。表現については市長に委ねる。
酒井市長	「４．スポーツに親しむ」について、前回の論議では「スポーツと運動」という案が出ていたが、意味合いとして重複していると感じた。先日、体育の日の祝日があり、その趣旨は、「スポーツに親しみ、健全な心身を培う」であることから、「スポーツに親しむ」と設定した。単に身体を動かすことも、スポーツとして解釈されている。
中村委員	スポーツに関して、小学校の体育に力を入れているのであれば、そのことも書けるのではないか。

垣内委員	「学校での部活動やスポーツの取り組みを充実させます」とあるが、これだけが目標ではないと感じる。
酒井委員	具体的にどんなことがイメージできるのか。
前川教育長	確かに、このままの表現だと、目標が狭まる感じがする。スキルアップもあるが、もう少し広く捉えたい。
酒井市長	篠山総合スポーツセンターについて、平成２８年度から指定管理者制度を導入する。指定管理者からは、野球やサッカーといったスポーツ種目だけではなく、運動の苦手な人が親しめる講座を展開していくことも提案されており、今後、積極的なスポーツ振興が図れると期待している。単にスポーツが出来るから幸せだ、というものではないと考えている。
酒井委員	今、学校現場では、子どもが少なく指導者もおらず、部活動が存続できないという状況がある。また、通う学校に、生徒が希望する部活動がないということもある。例えば、指導者の融通など、指定管理者との連携はできないか。
前川教育長	ホッケーなど、合同で取り組んでいるものもある。
酒井市長	要件はあるのか。
前川教育長	中学校体育連盟が認めれば問題がない。勝利至上主義のために強化選手ばかり集めているのではないか、との懸念から、単独の中学校でないと出場は認めないとする考えも根強いので、そこは、オリンピックのある２０２０年までに整理しなければならないと感じている。
酒井委員	顧問に頼らずとも、子どもが部活動に親しめることができればありがたい。
酒井市長	子どもの状況全てに対応していくのは困難ではないのか。
前川教育長	「取り組みの充実」となると限定的に聞こえるので、「環境の充実」とすれば、意を汲めないか。
垣内委員	私も「スポーツに親しむ状況をつくる」という意味合いのほうが、より理解され易いと思う。
酒井市長	やや余談になるが、部活動に関して、通常の部活動とは別に一般のチームに入って、好きなスポーツに取り組む生徒もいる。また、能力の高い生徒は、複数の部活動に関わったりもしているが、実際の大会となれば、教育上、配慮しなければならないこともあると思う。
酒井委員	特に指導者は、そういうことも意識しなければならない。人間を育てるスポーツでないと意味がない。「スポーツに親しむ」ということは、「良き指導者を育てる」ということにもなると思う。
酒井市長	子どもも、グラウンドのリーダーであれば、学校のリーダーでもあって欲しい。
酒井委員	勝つことも大切だが、チームワークや仲間づくりといった部分を意識できるよう、社会体育を市民全体で考えていきたい。
酒井委員	いままでのところで、何か補足することはないか。
小澤委員	今田であれば、進路選択の際に三田方面を考える子どもが多い。子どもの学力を含め、学校教育についての強いメッセージがあれば良いのではないか。“塾に頼らない”に替わる言葉を考えていた。
前川教育長	これまでから、“一人も見捨てない”というキーワードを使ってきたことがある。

	これからも意識していきたい。
酒井市長	どこのキーワードにするのか。
垣内委員	良い言葉だと思う。「４．学力の確立と向上」のところではどうか。
前川教育長	一定の学力水準は維持したい、という思いが込められている。篠山市の決意にもつながるのではないか。
垣内委員	一人も見捨てない義務教育、というように、義務教育を説明するように使いたい。
酒井市長	「読み、書き、計算、あのねちゃん」につながるよう、“一人も見捨てない”という文言を盛り込んでいく。
中村委員	「２．地域に開かれた学校」について、「コミュニティ・スクール」だけでは、項目としてわかりにくいと思う。
酒井市長	副題を設定する。
垣内委員	前回に論議した社会教育について意見を提示したが、ここには盛り込まれていない。理由を聞きたい。
酒井市長	大綱はわかりやすくまとめており、提案いただいた内容では、わかりにくいと感じたからである。
垣内委員	そのままだと分かりにくいかもしれないので、文章は直してもらって良い。
酒井市長	一般的な社会教育のことが、示されていると思う。
垣内委員	学校教育に重きが置かれた大綱になっている。篠山市民全体に対する社会教育の視点も必要ではないか。
酒井市長	スポーツも社会教育ではなかったか。
小林課長	「４．スポーツに親しむ」は、社会教育に含まれる内容である。
酒井市長	「４．スポーツに親しむ」に、加えてはどうか。
垣内委員	それでも良いと思う。
酒井市長	篠山市では多くの方が、様々な生涯学習や文化に親しまれており、たいへん良いことだと感じている。
中村委員	折角なので、化石のことも盛り込んではどうか。
酒井委員	篠山固有の文化、との項目で括って良いと思う。
垣内委員	文化活動に取り組まれている市民の方は、本当に多い。市民の方が大綱を見たとき、そのことが書いてあるか、そうでないかの違いは大きい。文化活動に対しても目を向けている、との市長の意識を大綱に示すことは必要だと思う。
前川教育長	「５．スポーツに親しむ」に含めるのか、それとも項目を新たに設定するのか。
酒井委員	新たに設定する方が、明確になって良いと思う。
酒井市長	篠山は文化遺産のまちでもある。ある東京の方も、「篠山ほど知的で美的なまちはない」と話されていた。
中村委員	「丹波篠山学」とあるので、「丹波篠山文化」という言葉ではどうか。
酒井市長	文化だけでは、いろいろな要素がありすぎる。
酒井委員	あくまでも大綱なので、「文化」という項目が入っていれば、細かなことまで網羅できていなくても問題はないと思う。
酒井市長	新たに項目を設定するとして、事務局として、良い文章表現はないか。
安井係長	篠山ならではの文化を育む、といったイメージでよいか。分かり易いと思う。

酒井市長	そのイメージで問題ない。
垣内委員	頑張って文化活動に取り組まれている方を応援したい、という意図が示せたら良いと思う。
安井係長	例えば「篠山に住むことの良さが実感できるように、市民が行う芸術・文化活動を支援して、篠山ならではの文化を育む。」といった内容の文章ではどうか。
酒井市長	その文章を基本に考えていく。
酒井委員	垣内委員の提案に「新たに発見されつつある」とあるように、“新たな発見”がキーワードのように感じる。そこの意図を教えて欲しい。
垣内委員	例えば、新たに篠山で生まれたアーティストが育っていくことや、その人材も教育資源だと捉えている。「まちなみアートフェスティバル」なども良い例である。「新しい」という言葉を盛り込みたい。
前川教育長	「創造」の創（創る）を使って、クリエイティブな部分を大事にしていくような文章にできればと思う。人の動きや活動も資源として捉えることができる。
篠山市長	例えば、子ども狂言は、どう捉えるのか。
前川教育長	もともとあったものを、掘り起こしている。原石を磨き始めている。
酒井市長	カルタや童謡唱歌はどうか。
垣内委員	無理に分類しなくても良いと思う。童謡唱歌まつりは新しくできたものだが、題材はもともとあった。
安井係長	文章について、「篠山に住むことの良さが実感できるように、市民が行う芸術・文化活動を支援し、新たな文化を創造して、篠山ならではの文化を育む。」ではどうか。
垣内委員	良い感じになったと思う。
前川教育長	今、活動している人は、実感や良さが分かっているので、「実感」という言葉を外せないか。
安井係長	今、提案したイメージでまとめ直す、ということにしたい。
構成員全員	了解した。
酒井市長	素晴らしい項目が加わったと思う。日本遺産と創造都市は、文化をキーワードとしてつながるものがある。
小澤委員	今田に住んでいると、中心市街地の取り組みが、なんとなく他人事のように聞こえることがある。ふるさと教育をはじめとして、この大綱に込められた内容が、篠山市の隅々に行き渡ることを切に願う。
酒井市長	市としての初めての大綱である。市を挙げて、早速、実行に移したい。宜しくお願いする。以上で第４回の会議を終了する。 以　上